

公開臨海実習実施要項

- 1 授業科目 生物学公開臨海実習 1.5 単位
(生命環境学群生物学類開設科目)
- 2 担当教官 和田茂樹(生命環境系・助教)、中野裕昭(生命環境系・助教)、
今孝悦(生命環境系・助教)、Sylvain Agostini(生命環境系・助教)、町田龍一郎
(生命環境系・教授)、田中健太(生命環境系・准教授)、出川洋介(生命環境系・助
教)、鈴木亮(生命環境系・助教)、高木悦郎(生命環境系・特任助教)、平尾章(生
命環境系・助教)、佐藤幸恵(生命環境系・助教)
- 3 実施場所 筑波大学 下田臨海実験センターおよび菅平高原実験センター
静岡県下田市5丁目 10-1 (下田臨海実験センター)
長野県上田市菅平高原菅平 1278-294 (菅平高原実験センター)
- 4 実施期間 平成 26 年 9 月 15 日(月)～平成 26 年9月 21 日(日)
- 5 対象学生 学部 2～4 年生
- 6 定 員 15 名
- 7 実習課題 海と山の生物の生態と多様性
- 8 実習内容
海洋は生命の発祥の場であり、その後生物は陸上へ進出した。現在では、多様な生物が
海・陸に生息し、それぞれの生態系を成り立たせている。この授業では、筑波大学の附属
センターである、下田臨海実験センターと菅平高原実験センターの 2 つの実験センターを
利用し、海と山の生態系ならびに生物多様性を学ぶことを目指している。
(1) サイズや栄養段階ごとに生物の現存量を調査し、その比較を実施する。これによって、
海洋と陸上における生態系ピラミッドの違いを明らかにする。
(2) 海洋では調査船を用いてプランクトンやベントス、ネクトンを採取し、磯採集も行う。陸上
では、草原地上部の植物・昆虫の丸ごと採集と、森林における菌・動物・樹木の観察を行う。
それぞれの生物の形態を観察し、海と陸における生物種多様性の構成の違いを考察する。
*なお、本実習では下田に集合し、実習途中で菅平に移動し、菅平で解散する。
- 9 講義内容 各々の実験・観察の目的、手順等と関連事項について講義を実施する。

10 実習日程

9月15日	17:00	までに下田臨海実験センターに集合	20:00～22:00	講義		
9月16日～9月17日						
8:00	9:00	12:00	13:00	17:00	20:00	22:00
朝食	実習(3H)	昼食	実習(4H)	夕食・入浴	講義・データ整理(2H)	
9月18日						
8:00	9:00	10:00	17:30	18:00		
朝食	清掃・解散	菅平へ移動	ガイダンス	夕食・入浴		
9月19日						
8:00	9:00	12:00	13:00	18:00	20:00	22:00
朝食	実習(3H)	昼食	実習(4H)	夕食・入浴	講義・データ整理(2H)	

9月20日

8:00	9:00	12:00	13:00	18:00	20:00	22:00
朝食	実習(3H)	昼食	実習(4H)	夕食・入浴	講義・データ整理(2H)	

9月21日

8:00	9:00	10:30
朝食	講義(1.5H)	清掃・解散

11 参加費用 宿泊費及び食費 約 16,000 円

12 提出書類 (1) 特別聴講学生願書(別紙様式)
(2) 学生教育研究災害傷害保険料分担金の領収書又は本人の加入申込書
※ (2)は受講決定後, 送付すること。

13 申込み先 〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命環境科学等支援室(学群教務)

Tel. 029-853-4574

14 受付締切日 平成 26 年 8 月 8 日(金)

15 受講生選抜基準 先着順。定員を超える場合には、なるべく多くの大学から受け入れるようにする(抽選などにて調整する)。

16 選抜結果連絡方法 e-mail と郵送によって、履修に必要な書類とともに本人に連絡する。

17 集合場所(下田臨海実験センター)までの順路

伊豆急行線『伊豆急下田』駅下車、徒歩約 30 分、タクシーでは約 5 分。バスでは、駅前のバスターミナルより石廊崎、下賀茂、仲木方面行きに乗り約 10 分、『鍋田口』で下車して徒歩約 5 分。

18 その他

下田臨海実験センターから菅平高原実験センターへの移動は、センターの手配した無料のバスを利用する。解散場所である菅平高原実験センターから上田駅へは、バス停「菅平高原ダボス」から上田駅行きのバスがある。バス停まで徒歩 15 分、バス所要時間は約 60 分。